

書名 項目	<h1>美術 1</h1> <h1>美術 2 ・ 3</h1>	9 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">開隆堂</div>
内 容	<p> ＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○ 日常に潜む美しい景色、日常に潜む面白い作品を写真で掲載し、対象や事象を捉える造形的な視点を理解できるようにしている。 ○ それが制作できるよう技法ややり方を各ページに記載している。また、撮影方法についても角度の違いまで記載しながら伝えようとしている。 </p> <p> ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○ 主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようになっている。 </p> <p> ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○ 美術の創造活動の喜びを味わい、感性を豊かにできるような抽象的な題材が1年生の教科書にも入っている。 ○ 美術を愛好する心情を育み、心豊かな生活を創造していく態度を養うために、日常生活に潜むポスターやピクトグラム、映像等のデザイン的な課題や画像が多く入っている。 </p> <p> ＜一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫＞ ○ 鑑賞のプリントなど課題や作品ごとに用意し、すぐに言語活動が行えるような工夫がされている。 ○ 単なる知識や理論学習にならないよう、作者のコメントを作品ごとにそれぞれ記載し、どんなイメージから表現していったか明記されている。 </p>	
資 料	<p>○ 観賞用の写真が他の教科書より大きなサイズで拡大アップされており、細部まで確認できる工夫がされている。また、全部の課題に対して、発想を広げられるような動画や制作工程の様子を載せた動画がついている。</p> <p>○ 用具の安全に配慮できるよう、危険や注意点については「！」等のマークで注意を引いて記載されている。</p>	
表記・ 表現	<p>○ 授業の導入で鑑賞ができるような作品を題材の最初のページに記載し、生徒の興味・関心・意欲を高める工夫がされている。</p> <p>○ 教員が注目して欲しいキーワードに対して、キャラクターを用いて細く説明をいれている。</p>	
総 括	<p>○ 生徒に合わせた資料を掲載し、美術教科の広がりを感じられる。</p> <p>○ 表紙の美術作品に特殊加工（UV 厚盛り）を施し、凹凸をつけることでその作品への興味や、美術教科への興味関心を高める工夫をしている。</p>	

書名 項目	美術 1 美術 1 資料 美術 2・3	38 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">光 村</div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○題材ごとの「鑑賞」の問いかけ、「POINT」で〔共通事項〕を意識した視点で、印象はどうか、どんな工夫がされているかなど発想を広げる導入になるように工夫されている。 ○材料や技法の資料が豊富で、より深く技能を理解できるように工夫されている。 ○題材の「表現」の項目で。制作途中を段階的に示し、巻末や別冊の「資料」へつなげることによって、より深く技能を理解できるよう工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○作者の言葉や作品についての解説文が掲載されており、どんな意図を持って制作されたのかを知り、自身の発想を広げる工夫がなされている。 ○各題材に発想・構想の手順が載っており、同年代の生徒がどんなことにこだわり、何を考えて作品制作を行っているのか理解しやすい表現になっている。 ○美術的価値のある作品が単独ではなく、どのような場所に置かれているのかも載っており、美術文化に親しみやすい構成になっている。2・3「ゲルニカ」ではゲルニカの制作背景が見開きの手前で目に入るように配置され、興味を引く工夫がなされている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○資料 1 に思考ツールが載っており、アイデアを作品に繋げやすくなっている。 ○心豊かな生活を創造していく態度を養うために、日常生活で使われているデザインや工芸の世界が掲載されている。 ○巻頭の谷川俊太郎の詩の力により、生きることと美術の関係性、必然性を実感することができ、非常に強い吸引力がある。 </p> <p> <一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫> ○言語活動が充実されるよう、授業の流れを明確に示し、生徒の活動での心情や考えを吹き出しで紹介するなどの工夫がなされている。 ○小学校の図画工作の学びを生かしているページ（美術 1 P. 10）や、様々な表現でつくられた作品（P. 13）を見せることで、描き方が一つではないことを伝えている。 ○各教科や道徳と横断的に繋がるようにコメントが付けてある。 </p>	

資 料	<p>○学習意欲を高めるために見開きの図版が掲載されている。次のページには作品の置かれた環境が分かる写真も載っており、環境を含めた鑑賞活動が行える。</p> <p>○技法等や発想・構想を広げるための資料をコンパクトな大きさの冊子にし、自ら考えて制作に活用できるように工夫されている。また、3年間を通して活用することができる。</p> <p>○混色表を資料集の裏表紙に掲載することで、作業を始めた後でもすぐに確認できるようになっている。</p>
表記・表現	<p>○UDフォントが使用されており、ルビ振りの対応も見られ、多様な生徒の立場に立った表現の仕方や考え方を中心に構成されている。</p> <p>○全ての作品に作者のコメントが入っており、作品に込めた思いを鑑賞する側に伝える工夫がなされている。</p> <p>○作品の写真が大きく、区切りのないレイアウトになっている。</p>
総 括	<p>○純粹に美術作品の魅力を伝えるとともに、作品の根底にある作者の心情や時代背景、文化的価値に迫る構成など、生徒の発想を広げ、創作意欲をかき立てる工夫が随所に施されている。</p> <p>○言語活動の充実や他教科との関連付け、生徒の多様性にも応じた工夫がなされており、美術科における主体的・対話的な授業の展開がしやすい教科書である。</p>

<p>書名 項目</p>	<p>美術 1 美術との出会い 美術 2.3 上 学びの実感と深まり 美術 2.3 下 学びの探求と未来</p>	<p>1 1 6 日 文</p>
<p>内 容</p>	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒が対象や事象を捉える「造形的な視点」（知識）について理解が深まるように題材の「学びの目標」や主文、「鑑賞の入り口」において造形的な捉え方ができる文章が工夫されている。 ○題材ページに[共通事項]（知識）の意識を促す[造形的な視点]を設定し、掲載作品から感じたこと、気付いたことを意識させ、活動と知識が結びつけられる工夫がされている。 ○「鑑賞の入り口」の表現が具体的でどこに注目させたいのかが明確。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○美術 1 の巻末資料では発想や構想の手立てを示したページを 4 ページで設定している。アーティストの鈴木康広さん田中達也さんの活動を紹介するほか、生徒の活動に対するヒントが示されている。 ○各題材に[造形的な視点]が示してあり、例示された作品の良さに気づく手立てを与えている。さらにこうした視点を意識して、制作にも生かそうとすることが期待できる。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各巻のオリエンテーションページでは、各学年においてどんな事を学ぶのか、生徒にわかりやすい言葉と図版を使用して示してあり、中学校の美術で育てる学びに向かう力が涵養されるよう配慮されている。 ○2 . 3 下巻のオリエンテーションでは、シンガーソングライターやタレント等著名人を紹介し、美術の学びがこれからの人生や生活に大きく関わってくる力になることが強く印象づけられている。 <p>＜一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学びのはじめに」を新設し、授業の導入に活用したり、関心、意欲を高めたりするために有用である。 ○「学びを支える資料」に「もっと知りたい」のコラムがあり、興味関心を広げる手立てが用意されている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○効果的な資料を選び、大きく迫力を持って伝えたり、多様な表現を数多く、適切な大きさと掲載したりしている。細部もわかりやすく鮮明な図版が工夫されている。 ○実感的理解が得られるような工夫がなされている。（1年:屏風を折って立てる縄文土器も部分が原寸大・2年:浮世絵は原寸大・3年:誕生は部分が原寸大） 	

<p>表記・ 表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の発達段階を考えた、わかりやすい3分冊構成となっている。 ○重要事項を大きく表示して、注意深く読み進める事で重要な視点に気づけるような言葉が示してある。静かに自分の表現を探ろうとする活動を優しく見守るたたずまいを感じる。 ○装飾を控えた白地を生かしたデザイン。
<p>総括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○美術科として身につけるべき力をまんべんなく主体的に伸ばせるよう、工夫されている。さらに現代的な諸課題に気づく視点が盛り込まれ、美術の授業から多くの価値とふれあい、それぞれの発展的な学びへ誘う配慮がなされている。 ○教科書会社のセンスの良さやカ量を前面にアピールするのではなく、あくまでも主役は授業に取り組む生徒であるということを良くわかっている教科書だと感じる。